

京都府公立高等学校前期選抜について

文化祭まであと4日、誰もが学級の演劇のために全力を尽くしていると思います。そんな中ですが、文化祭が終了すると、すぐに第3回進路希望調査が待っています。そのため、キャリア通信では公立高等学校の入学選抜について復習を兼ねて情報を掲載します。文化祭の取組で忙しいとは思いますが、5分でいいのでキャリア通信を読んで、文化祭が終わってからのことを考えてほしいです。

- 前期選抜は、2月2日に出願（中学校から一括で出願）、2月16日と17日に検査、2月24日に合格発表。（ただし、京都市立京都堀川音楽高等学校は別日程です。）
- 「前期選抜」は、全ての学科で実施。
特に注意が必要なのは、定員の100%を「前期選抜」で決定する学校です。これらの学科・コース（亀岡高校普通科美術・工芸専攻、紫野高校アカデミア科、乙訓高校スポーツ健康科学科など。詳しくは「前期選抜要項」冊子を参照）を希望する人は、必ず前期選抜を受検する必要があります。
- 「職業に関する専門学科」「その他普通教育を施す学科」では、「中期選抜」も実施。
「前期選抜」で定員の70%（学校・学科によって50%の場合もあります。詳しくは「前期選抜要項」冊子を参照）が決まるので、これらの学科を第1希望とする人も、「前期選抜」から受検した方が良いと思います。
- 前期選抜の方式
実施する学科や検査内容の詳細、各検査の比率などは各高校が決めています。（詳しくは「前期選抜要項」冊子を参照）

方式	学力検査	面接・小論文	報告書	活動実績報告書	
A方式	あり	いずれか or 両方	○	△	
				1型	×
				2型	○
B方式	なし	両方	○	○	
C方式	あり	いずれか or 両方	○	△	
※ ○：必須 △：各高校が選択 ×：不要					

<各方式の特徴>

- A方式、A方式1型：「意欲と学力に優れた生徒を集めたい」ということです。
 - A方式2型：入学後は部活動や生徒会の中心となって活躍する生徒を集めようとしています。その高校が重点を置いている部活動などで高い実績を持っている生徒が選ばれることが予想されます。ただし、学力検査もありますので、実績のみでは苦しいと思います。
 - B方式：学力検査がなく、「活動実績報告書」「報告書」「面接、小論文」で合否が決定されます。A方式2型よりもさらに「活動実績」が重視されると思われます。
 - C方式：実技検査が行われる場合は、すべてC方式となります。
- 前期選抜を受検するにあたっての注意事項
 - 前期選抜で定員の100%を決めない学科では、中期選抜が行われ、残りの定員を決定します。前期選抜で不合格になった場合は、再度同じ学校（学科）に出願することが出来ます。また、前期選抜よりも中期選抜の合否判定ラインは低くなるのが一般的です。
 - 中期選抜を実施する「普通科（専門的なコースを除く）」や「職業に関する専門学科」を第1希望にした場合、「前期選抜」に出願する・しないを判断することになります。「2回チャンスがあるなら、出願すればいいのではないか。」と思う人もいると思いますが、物事にはメリットとデメリットがあります。それを理解した上で判断しましょう。

① 前期選抜を受検するメリット

「前期選抜」で合格すれば入学校が決定です。2月24日で「受検」は終了となります。入学する高校で3月に実施される「学力診断テスト」に向けての準備を早く始められます。また、合格すれば自分の学力に自信が持てるでしょう。

② 前期選抜を受検するデメリット

前期選抜の状況を知りましょう。右の表は、昨年度の前期選抜での近隣公立高等学校普通科の出願状況を示しています。右の表からわかるように高倍率になっています。倍率が最も高かった桂高等学校A方式では、245名の志願者のうち、203名が前期選抜での合格を得られませんでした。このように、前期選抜では厳しい競争が予想されます。

高校名	方式・型	定員	志願者数	倍率
西乙訓高等学校	A方式	48人	97人	1.96倍
乙訓高等学校	A方式1型	36人	136人	3.67倍
	A方式2型	24人	40人	1.63倍
向陽高等学校	A方式	30人	134人	4.27倍
	B方式	30人	36人	1.20倍
洛西高等学校	A方式	84人	226人	2.58倍
桂高等学校	A方式	42人	245人	5.74倍
	B方式	42人	52人	1.07倍

③ 前期選抜を受検せず、中期選抜のみで勝負した場合のメリット

まず受検料2,200円が不要になります。願書の準備も不要です。前期選抜は中期選抜に比べ「記述式（文章で答える形）の問題」が多く出題されています。当然、その対策をする必要があります。でも前期選抜を受けないのであれば、その受検準備は不要になり、中期選抜の対策に集中できます。前期選抜を受検しないので、その日も学習できます。また、前期選抜の合格発表に向けてドキドキする必要もありません。

(3) 前期選抜不合格の場合

では、前期選抜で合格できなかった場合、どうなるのでしょうか？前期選抜で「普通科」や「職業に関する専門学科」に出願して不合格になった場合、同じ高校、同じ学科の中期選抜に出願することができます。例えば普通科の場合、中期選抜で合格するのは募集定員の70%です。しかも、もちろん前期選抜で合格した人は中期選抜に出願できません。だから、単純に考えれば、「桂高校の前期選抜（A方式）で上位43番目の検査結果だった人」は、前期選抜では不合格ですが、中期選抜ではトップクラスの学力で受検できることになります。つまり、希望する高校の中期選抜に合格できる能力を持っている人は、前期選抜を受検しなくても、中期選抜で希望する高校に合格できるわけです。このように、前期選抜を受検するメリットも、前期選抜を受検せずに中期選抜だけを受検するメリットもあります。どちらにするのかは、保護者の方とも相談して、しっかり判断してください。

(4) 前期選抜を受検するときの心構え

1つ目に、普通科や職業に関する専門学科の場合、前期選抜で不合格になっても、第1希望校をあきらめる必要はありません。中期選抜でもう一度勝負すれば、合格する可能性があります。ほとんどの高校は中期選抜の方が合格の可能性が大きいと考えてください。

2つ目に「ダメでもともと」と思って受検しても、受検したら「もしかしたら…」と期待を持つものです。しかし前期選抜は高倍率。合格証を手にする人よりも涙を流す人の方が多いのが現実です。もしも残念な結果となっても、すぐに気持ちを切り替えることが大切です。人数は多くありませんが、前期選抜の結果で自信を無くし、中期選抜にチャレンジせず、併願校（私立高校）への入学を決意する人がいます。自分のメンタル面も考えて判断してください。

「私立高等学校説明会」について

「私立高等学校説明会」を11月2日（水）14時20分より本校にて実施します。今回は、私立高校8校の先生をお招きして、各校の特徴を説明していただきます。この説明会には、3年生の生徒全員が総合的な学習の時間として参加しますが、保護者の方にも同時にご参加いただける貴重な説明会となっております。

詳細につきましては、本日配布しました「『私立高等学校説明会』参観のお知らせ」をご確認ください。また、高校の先生方へ人数をお伝えする関係から、出席をご希望される保護者の方のみ、以下のGoogle Formsに10月24日（月）までに入力してください。入力の際、生徒の名簿番号が必要になりますので、ご確認の上、入力してください。よろしくお願いいたします。

<https://forms.gle/sRcleM4Ct7SwGhHG8>

